

## 第6学年「社会」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 学習内容から自分なりの問いをもつことができた。
  - 資料から読み取ったことを自分の言葉でまとめることができた。
- 課題**
- ▼学習問題に対する考えをもつことができるが、それらに関連付けて思考したりまとめたりすることに苦手さを感じる児童が多い。基本的なことは理解できるが、既習内容と結び付けて考えることも苦手な児童が多い。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 資料から分かったことや既習内容を結び付けて思考し自分の言葉で表現する力。
- ◇ 社会的の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する資質・能力を育成する。

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 毎授業の導入において、前時までに児童の中から出た問いや児童のまとめを提示することで学習意欲を高める。

#### 言語活動の工夫

- 資料の読み取りを基に、見えること（事実）と言えること（原因や理由、解釈や意味付け）をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。

#### ICT活用の工夫

- ICTを活用して、全員が共通の資料から情報を読み取ることができるようにする。手元でじっくりと資料を見て、気付いたことや考えたことを学級で共有していく。

#### 課題解決力育成の工夫

- 学習問題と自分の生活との関連付けを見出す「ふりかえり」を行う。

### 達成目標

- 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。